

科目ナンバリング		U-LAS70 10001 SJ50					
授業科目名 <英訳>	ILASセミナー：ヨーロッパ近現代史入門 ILAS Seminar :Introduction to Studies in Modern and Contemporary European History			担当者所属 職名・氏名	人間・環境学研究科 准教授 福元 健之		
群	少人数群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	ゼミナール (対面授業科目)
開講年度・ 開講期	2024・前期	受講定員 (1回生定員)	12 (8) 人	配当学年	主として1回生	対象学生	全学向
曜時限	水5	教室	共西23			使用言語	日本語
キーワード	ヨーロッパ / 近代史 / 現代史 / ナショナリズム						
(総合人間学部の学生は、全学共通科目として履修登録できません。所属部局で履修登録してください。)							
[授業の概要・目的]							
本演習では、ヨーロッパ近現代史に関する文献の精読を行う。今年度のテキストは、M・ヴァン＝ヒンダーアハター、J・フォックス編著（金澤周作、桐生裕子監訳）『ナショナリズムとナショナル・インディファレンス——近現代ヨーロッパにおける無関心・抵抗・受容』である。国民への、あるいはナショナリズムへの「無関心」を対象に、様々な事象を扱ったテキストを読み、19・20世紀ヨーロッパの多面的な歴史像や、ナショナリズム研究の現状と課題について理解を深めたい。毎週一章ずつ読み進め、担当者はレジュメを作成し、それを基に出席者で議論する。							
[到達目標]							
西洋近現代史に関する文献の精読と討論を通じて、研究に必要な知識や方法論の基礎を身につけ、また自らの考えを言語化できるようになる。							
[授業計画と内容]							
1. イントロダクション 2. 序章を読む テキストの序章「ナショナル・インディファレンスと近代ヨーロッパ・ナショナリズムの歴史」（マルテン・ヴァン＝ヒンダーアハター／ジョン・フォックス）を読み、その内容について、金澤周作監修『論点・西洋史学』をサブテキストにして、そこで挙げられている論点を参考にしながら議論する。 3～13. 本論（第1～11章）を読む 担当者は、該当箇所のレジュメを作成し、報告・問題提起を行う。それを踏まえて、出席者全員で議論する。 3. 「第1章 他のことで頭はいっぱい——19世紀ベルギーにおける国民文化プロジェクトの障害と限界」（トム・ヴルスハフル） 4. 「第2章 ナショナル・インディファレンスと国民的献身の往還——第一次世界大戦期ロシアにおけるトレンティーノ出身戦争捕虜の軌跡」（シモーネ・A・ベッレッツァ） 5. 「第3章 移行途上の迷い？——アドリア海北部におけるハプスブルク帝国の遺産、国家と国民形成、新ファシスト秩序」（マルコ・ブレシャーニ）							
ILASセミナー：ヨーロッパ近現代史入門(2)へ続く↓↓↓							

6. 「第4章 ナショナル・インディファレンスとトランスナショナル企業——チェコの製靴会社バチャのパラダイム」 (ザカリー・ドルシャル)

7. 「第5章 ナショナリズムと無関心のあいだ——戦間期ユーゴスラヴィアにおける無関心の緩慢な排除」 (フィリップ・エーデルヤッツ)

8. 「第6章 フランス人らしさへの複数の道——ナショナル・インディファレンスとアルザスのフランス復帰, 1919-1939年」 (アリソン・キャロル)

9. 「第7章 政治を越えて——日常的民族実践としてのナショナル・インディファレンス」 (ガーボル・エグリ)

10. 「第8章 国民への無関心・統計・構築主義パラダイム——戦間期ポーランドの国勢調査におけるトゥテイシ (「ここ出身の人々」) 欄」 (モルガン・ラベ)

11. 「第9章 20世紀前半の上シレジアにおける道具的ナショナリズム」 (ブレンデン・カーチ)

12. 「第10章 「わたしは諸国民の境を取り払った」——第二次世界大戦終結期上シレジアにおける国民の乗り換えとローマ・カトリック教会」 (ジム・ビョーク)

13. 「第11章 「ソヴィエト連邦市民——なんと荘厳な響きでしょう」——ポスト・スターリニズム期ソ連の投書・ナショナリティ政策・帰属意識」 (アナ・ウィティントン)

14. 結論 (第12章) と解題を読む

テキストの結論「結 論——(再論) ナショナル・インディファレンスと近代ヨーロッパ・ナショナリズムの歴史」 (ジョン・フォックス／マールテン・ヴァン＝ヒンダーアハター／ジェイムズ・M・プロフィ) および桐生裕子による解題を読み、論文集全体の疑問点や批判点に関する考察をまとめたうえで、議論する。

15. フィードバック

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

報告の内容、演習中の発言、出欠状況をもとに、平常点で評価する。

[教科書]

マールテン・ヴァン＝ヒンダーアハター、ジョン・フォックス編著 (金澤周作、桐生裕子監訳) 『ナショナリズムとナショナル・インディファレンス——近現代ヨーロッパにおける無関心・抵抗・受容』 (ミネルヴァ書房、2023年) ISBN:9784623094356 (入手方法については、別途初回に説明します。)

[参考書等]

(参考書)

金澤周作監修 『論点・西洋史学』 (ミネルヴァ書房、2020年) ISBN:9784623087792 (入手方法については、別途初回に説明します。)

ILASセミナー：ヨーロッパ近現代史入門(3)

[授業外学修（予習・復習）等]

毎回、決められた文献を読み、出席することが前提となる。また、報告担当者は、レジюмеを作成し、それに基づいて報告を行う。他の出席者からの質問に答えられるように、分からないところも調べてくることも求められる。

[その他（オフィスアワー等）]